

その2 りんご園ハイキング

その2 りんご園ハイキング

そんなこんなでりんご園にやってきたウサビと遠藤さん



ウサビ「遅れてホントにごめんなさい」

遠藤さん「まあ過ぎたことは仕方ないわ。それよりこれを御覧なさい。」



じゃーん！世界のりんご園全体図

やっぱ広い

ここではさまざまな品種のりんごを観賞用に栽培しているのです。



例えばこれはロシア産



ここはアメリカ・カナダのりんごを栽培しているようです。

ウサヒ 「えー、日本の気候で海外のリンゴが育つなんてちょっと驚き。」

遠藤さん 「うーん、でも、すべてのリンゴがおいしく育つってわけじゃないから、この町にはこの町にあった品種のリンゴを商品用に栽培しているわ。だから、この園にある外国のリンゴの多くが食用ではなく観賞用として育てられているの。」

ウサヒ 「じゃあ、朝日町に適してるリンゴってなあに？」

遠藤さん 「町内の農家さんがそれぞれ育てる品種はいくつかあるから、どれが一番適してるってというのはなんともいえないけど、朝日町の和合平地区は無袋ふじの発祥の地なのよ。」

ウサヒ 「むたいふじ？」

遠藤さん 「リンゴは傷がついたり、虫がついたりするのを防ぐため、実のひとつひとつに薬品のついた袋をかけていたんだけど、和合平では、ふじという品種を袋なしに太陽をたくさん浴びさせて作る方法の先駆け的存在なのよ。」

ウサヒ 「それっておいしいの？」

遠藤さん 「それは食べてのお楽しみってことで、はいこれ」

そういって遠藤さんはなにやらひろって、手渡してくれました



ちっちゃいリンゴ





とりあえず口にいれみたよ。

園の中にはけっこう実がおちています。

また、少し歩くと



な？怪現象？

いえいえ違います。

これは、まだ実が青いうちにメッセージをはりつけておくと、日光の当たり具合の差で文字の部分に白くのこるという、メッセージ入りリンゴづくりなのです。



遠藤さんによるメッセージ入りリンゴの説明

地元の中予 1 年生がメッセージを書き、受験を控えた 3 年生にプレゼントするためのものだそうです。



朝日町の大地と後輩たちの力で、がんばれ受験生！

ウサビ 「へえ、りんご園はただ見るだけじゃなくて、いろいろやっているんだね。」



体育座りで遠藤さんの話をきくウサビ

りんご園の坂道をゆっくり登っていくと、頂上付近で謎の小屋を発見！



ウサビ 「遠藤さんあれは？」

遠藤さん 「あれは炭焼き小屋のあとね。」

炭焼き小屋でシャベルを見つけたウサビ。



働き者の気分を味わう。



ウサビ 「かっこいい？」

遠藤さん 「いまいちテーマが見えないわね・・・」

そんなこんなで1時間ほどりんご園を散策。

今回一番わかったことは・・・



果樹園と着ぐるみは意外と相性が悪い

(理由:枝がひっかかるから)



本格的に前に進めなくなるケース



逆にカメラの橋本くんは、木の影にかくれて撮影するのが得意だそうです。

ウサビ 「いやぁ、今日は本当に楽しかったです。ありがとう遠藤さん。」

遠藤さん 「ちょ、まちなさいウサビちゃん。大事な取材忘れてるわよ！」

ウサビ 「??」

遠藤さん 「リンゴ温泉よ！」



完全に忘れていた

ウサヒ 「は、そうだ！りんご温泉。」

遠藤さん 「じゃあ、いよいよ行くわよりんご温泉に！」

そうなのです。

今回の取材はこれからが本番なのです。

リンゴが浮かぶ不思議な温泉。りんご温泉にいよいよウサヒが潜入します！

つづく